

㊤㊤㊤ 1999年度採集観察会 ㊤㊤㊤

場 所：山梨県 扇山

雨天決行.....

第2回：1999年7月11日 (日)

(第3回10月17日 最終回2000年2月20日)

集 合：JR中央本線線鳥沢駅改札口周辺 午前11時 (時間厳守)
→改札口は1ヵ所しかありません。

付近では弁当を買うことができません。持参お願いします。

コース：鳥沢駅から甲州街道を渡って、扇山登山道を直進します。
山頂までの途中で、昼食午後の採集となる予定です。

世話人：新海 明(☎ 042-522-2605) 大川秀治(☎ 042-744-1470)

会費値上げのお知らせ

2000年度より、一般¥3,800、学生¥2,000となります。また今年度中に2000年度以降会費前納いただける時は、値上げ後の金額にてお願いします。

今年度(1999年)まで一般¥2,800、学生¥2,000です。

郵便振込口座番号 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会

以上会費について何かご不明の点ありましたら、下記まで。

#安田 明雄：〒226-0011 神奈川県横浜市緑区中山町329-1 中山駅前M11-506

合宿のお知らせは最終頁(p.12)です

★ 東京蜘蛛談話会例会総会報告 ★

1999. 5. 9 (日) 10:00~15:43 国分寺市商工会館2階「中会議室」

司会進行：平松毅久 (スライド映写：谷川明男)

(1) 開会の挨拶：萱嶋 泉 10:06~10:08

(2) 自己紹介 10:08~10:35 (3) 講演 10:54~15:41

①新海 明 「カネコトタテグモの扉づくり」(VTR・レジメ)

②萱嶋 泉 「河川敷のクモ」

③池田博明 「川崎大師河原のクモ」(レジメ)

(記念撮影・昼休憩：12:15~13:24)

(3) 総会 13:25~13:45 → 詳細は下記

④徳本 洋 「寒冷によるジョロウグモの分布限界」(スライド・レジメ)

⑤高橋 登 「サソリモドキ考(1)．アマミサソリモドキとタイワンサソリモドキについて」(スライド・レジメ)

⑥千田高史 『西表島のクモ1999. 「これも、それも、あれも新種」』(スライド)

(4) 閉会の挨拶：古浜 隆 15:42~15:43

参加者 (29名・50音順敬称略)

池田博明、石島 力、今井正巳、梅林 力、小澤實樹、笠原喜久男、加藤むつみ、
萱嶋 泉、木村知之、工藤泰恵、小峰光弘、酒井理彦、笹岡文雄、貞元己良、佐藤幸子、
新海 明、新海栄一、須賀瑛文、高橋 登、谷川明男、徳本 洋、中島晴子、萩本房枝、
初芝 涼、平松毅久、古浜 隆、宮下和喜、安田明雄、八幡明彦

@1999年度総会報告

(1) 承認事項

①決算 (p. 3 参照)

74号作成について掲載の新海栄一氏の論文に関し、日野グリーンファンドの補助金が付いたため、会の支出は0となっています。

会計監査笠原喜久男より決算には、問題がないと監査報告がなされ承認。

②予算 (p. 4 参照)

77, 78号は記念号のため、例年より作成予算を増額。

③合宿 (p. 12 参照) 福井県敦賀市 (担当：金野 晋、新海 明)

(2) 活動予定

①「Kishidaia」77, 78号 ②「談話会通信」96~98号 ③採集観察会(山梨県・扇山)

④「だんわ会」未定

(3) その他

①会員名簿作成の予定(8月中旬頃) ②規約を今後「Kishidaia」誌上に掲載

東京蜘蛛談話会1998年度決算報告

科 目	収 入	支 出	備 考
会費	1,105,600		欄外①
寄付	49,400		
別刷り	63,175		
利息(普通)	337		
利息(定額)	46,040		
前年度繰越し	60,500		
特別会計から繰り入れ	8,250		
会誌作成		507,150	欄外②
会誌発送		120,170	欄外③
談話会通信		112,330	
報酬・その他の送料		47,900	各局通信事務費
事務一般費		14,952	封筒等
その他		0	
前納会費繰越総額		530,800	
計	1,333,302	1,333,302	

欄外

①98年度前納繰越	336,400
98年度当年納入	238,400
99年度以降前納	530,800
計	1,105,600

②74号本誌・別刷り	0	補助金によって賄ったため
75号本誌	171,150	
75号別刷り	28,350	
76号本誌	280,350	
76号別刷り	27,300	
	507,150	

③74号本誌	1,690
74号別刷り	5,740
75号本誌	56,100
75号別刷り	2,760
76号本誌	48,640
76号別刷り	5,240
計	120,170

	総額	うち年度内受領
1999年度前納	353,600	236,000
2000年度前納	92,200	44,600
2001年度前納	39,200	14,000
2002年度前納	17,800	6,600
2003年度前納	8,400	0
2004年度前納	8,400	0
2005年度前納	8,400	0
2006年度前納	2,800	0
前納合計	530,800	301,200

99年3月31日現在の財政状況		
郵便貯金	普通	¥170,913
	定額	¥1,224,852
振替口座		¥9,787
手持ち		¥13,179
	計	¥1,418,731
内訳	前納会費	¥530,800
	特別会計	¥887,931

以上相違ありません 1999年5月9日

会計 安田明雄 会計監査 笠原喜久雄

東京蜘蛛談話会1999年度予算

科目	収入	支出	備考
会費	556,400		欄外①
プール金から繰入れ	203,740		
会誌作成		460,000	欄外②
会誌発送		110,160	欄外③
談話会通信		126,480	欄外④
報酬		48,500	欄外⑤
事務一般費		15,000	
計	760,140	760,140	

欄外

	単価(円)	数	計(円)
①会費	2,800	188	526,400
	2,000	15	30,000
計			556,400
②kishidaia77号	230,000	1	230,000
78号	230,000	1	230,000
計			460,000
③kishidaia77号	270	204	55,080
78号	270	204	55,080
計			110,160
④通信96号印刷	17,000	1	17,000
97号	17,000	1	17,000
98号	17,000	1	17,000
通信96号発送	90	204	18,360
97号発送	90	204	18,360
98号発送	90	204	18,360
例会はがき	50	408	20,400
計			126,480
⑤本部	2,000	1	2,000
事務局	5,000	1	5,000
編集	5,000	3	15,000
通信	6,500	1	6,500
その他送料	20,000	1	20,000
計			48,500

1999年5月9日 会計 安田明雄

1998年度会員動向

1998年4月1日現在の会員数 201名(一般187名, 学生13名, 名誉1名)
入会15名, 退会12名(希望9名, 規約3名)

1999年4月1日現在の会員数 204名(一般188名, 学生15, 名誉1名)

関東編

- ⇨梅林 力（東京都杉並区） あいかわらず出糸突起・出糸管に興味をもって調べています。クモの体の微細構造にも非常に興味があり、同時に調べています。
- ⇨小澤實樹（東京都世田谷区） 昨年と今年はハエトリグモがよく室内をジョギングしていますが、伴走の時間がとれず、いつも見送るばかりです。
- ⇨初芝伸吾・初芝 涼（東京都国立市） いろいろな所にクモの網がみられるような季節になり家族でよろこんでおります。
- ⇨佐藤幸子（神奈川県横浜市） 1月30日に住居を作ったオオヒメグモの幼体がいつのまにかいなくなりました。多分死んだものと思います。せつかくの人間の住む家の中をえらんだのに……。
- ⇨新村 誠（神奈川県川崎市） 相変わらず、森屋、鳥屋、植物屋など飛び回っておりまして、扇山とやらへも行ってみたいし、福井の合宿も…と、日程表を繰りながら思案調整の毎日です。ゆっくりとクモを見たり教えてもらったりしたいなあ。
- ⇨萩本房枝（神奈川県横浜市） 最近、家のおふろの中によくクモが浮いていることがあります。たいてい、オスの成体が多いので、とてもおもしろいです。コモリグモやジグモの♂よくはいつています。これからもおふろのクモを採集していきたいと思います。何かまとまりましたら報告します。
- ⇨峯澤 渉（神奈川県横浜市） 文系の私が身近に接する蜘蛛の多くは文字や画にうごめく妖しい存在です。いずれ調査してみたいと思います。
- ⇨野崎文江（埼玉県入間郡毛呂山町） 右手首を痛めてから骨より筋肉が痛み、腕を伸ばしたり仲々できません。12月13日朝8:00気温0℃初氷がうすくはっていました。腕の筋肉が明け方痛いので温度計を見ると室温7℃、朝6時庭のジョロウグモメス成体が動けず網の中にいました。14日朝6時、0℃庭の網の中にジットしているクモを家の中につかまえて入れました。日中の気温は12℃、室温は17℃ようやく元気になり、網をはりました。1月天井のはりの間を移動どうやら卵のうを三ヶ所に。最後1月5日卵のうの下に（ジョロウグモはさかさに網の中にいる）上向きに卵のうをかかえるようにしてぶらさがっていました。〔今もそのまま〕10日頃水分がなくかわいそうと思いきりをかけましたが動きませんでした。母グモが卵のうを守る姿勢に感動しました。今もそのまま毎日天井のはりのメスグモを見つめています。子グモの誕生までは。

関西編

- ⇨徳本 洋（石川県金沢市） イソコモリグモの生息環境調査のため、昨年は一か所30本のクイ打ちを数か所行いました。ところがこの3月、その整備のために5本クイを打っただけで背中が痛くなりました。寄る年波ですね。

⇨ 齋藤慎一郎（三重県津市） 長らくごぶさた致しましたが、再入力させていただきました。よろしくご指導下さい。5月6日に日本を発ち、コスタリカで開かれるラムサール条約締結国会議に入って参ります。敦賀の中池見湿地の危機を、世界の人々に訴えるためです。NGOのGlobal Biodiversity Forum 泥炭地に関するworkshopに参加したいと思っています。首都サンホセは高原とはいえ、熱帯ですごく二週間はサテどうなることやら…。急に行くことになったものですから資料づくりなど準備に追われています。コスタリカのハエトリグモを見られるチャンスがあればよいのですが……。7月の敦賀合宿、今から楽しみです。

他に通知を頂いた方々 出席講演：萱嶋 泉、新海 明、高橋 登
欠 席：木庭 奏、藤井靖浩、水野陽介、守 桂子

== ... == ... == ... == ... == ... == ... == ... == ... == ... == ...

会員みなさんのお手紙の中から **特にお知らせ** →→→→→→→→

☆入江照雄（熊本県熊本市） 退職して、3月で4年目になります。やっと標本整理（クモ、洞窟動物、淡水小動物、小型哺乳類）の時間がとれるようになりました。国立科博、県博、市博に寄贈予定で整理中です。アジアのオオジヨロウグモ類の標本、研究のため必要な方があればゆずります。ご連絡ください。

KISHIDAIA担当は木村知之
原稿送付は池田博明

☆☆谷川明男（神奈川県横浜市）池田さんにずいぶんとつかれて、やっと私もホームページを作りました。私の所有している文献や標本のリスト、クモ目録（西表は画像つき）キシダイアと遊絲の版下、近似種の見分け方などで構成されています。一度見てみて下さい。

<http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/>

☆☆☆八幡明彦（東京都荒川区） 2月の談話会採集会は、楽しく参加させていただきました。掘ってみたら子グモごととれてしまった。キシノウエトタゲグモは、大切に飼育することにします。以前から、タランチュラ各種を飼育していますが、今年になってアフリカ産のPterinochilus sp.と中米産のAvicularia versicolorが繁殖・ふ化しました。日本のペット屋で売られているタランチュラは、まだまだWC（野生採取個体）が多いので、飼育下繁殖個体（BC）を増やして、WC輸入に少しでもハドメをかけられれば…と考えています。マニアック蜘蛛ホームページ、「みるかし姫のページ」のほうも、（インターネットおもちの方は）よろしく。

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Namiki/3684>

クモのTV番組のご紹介！

太平洋放送制作のTV番組「ライフライン」（キリスト教系の伝導放送）に萱嶋泉さんが出演になり（題名：人の生活をうるおすクモの研究）、ご自身のクモの研究生活についてお話をされています。放送予定は下記の通りです。

@北海道地区

HBS（北海道放送） 6月5日（土） 5：30 am

@東北地区

ATV（青森テレビ） 6月5日（土） 6：00 am

KFB（福島放送） 6月5日（土） 6：00 am

@甲信越地区

BSN（新潟放送） 6月5日（土） 5：30 am

@関東地区

GTV（群馬テレビ） 6月6日（日） 7：00 am

TVS（テレビ埼玉） 6月5日（土） 8：00 am

TVK（テレビ神奈川） 6月6日（日） 8：30 am

@東海地区

SDT（静岡第一テレビ） 6月5日（土） 5：00 am

@関西地区

BBC（びわ湖放送） 6月6日（日） 8：30 am

SUN（サンテレビ） 6月6日（日） 7：00 am

TVN（奈良テレビ放送） 6月6日（日） 7：00 am

生物関係の一般書、とくに生物の行動や習性の面白いところを集めた博物学的内容の本にクモが登場することがたまにある。そしてこれは訳本に多いのだが結構間違いが目立つのである。約5年前に『ちょっとエッチな生物学』とかという陳腐なタイトルの本が出版されたが、そこにはオナガグモの一種のことが『スギグモ』と書かれており（気持ちは分かる）、タイトルに惑わされて購入または借りて読んだ一部のクモ関係者の聲を聞いたものである。無論筆者もその中の一人であることはいうまでもない。そこで筆者が目にしたクモに関する記述のある生物一般書の中で間違いに気付いたものを、筆者のイヤな正確と暇人ぶりを露呈するようで気が引けるが、幾つか挙げてみることにする。

まずあまり一般的な本というわけでもないが『最後の熱帯雨林』（マーク・コリンズ編 甲山隆司・黒田末寿監修、同朋舎出版）のP87に、一見ハシリグモの一種と思われる褐色の大きなクモが葉上でアマガエルの仲間を捕らえて食べている写真があり、その横にいわく「大型のオオシホーグモ (*Cupiennius coccineus*) は… (中略)、熱帯にのみ発見されている、オオシホーグモは温暖な地域のコモリグモに似ている。コモリグモ同様、彼らは狩人である。」という解説が載っている。このオオシホーグモとは一体なんぞやといぶかる向きもあるかと思うが、学名を頼りに調べるとシボグモ科のクモであることがわかったので”オオシボグモ”のつもりで使用したと思われる。写真を撮影した場所（国）も明記されていないし、写真のクモの学名が正しいかどうかは筆者にはわからないが眼の配列から判断してシボグモ科であることは間違いなさそうである。ただもう一点、どう見ても似ているのはコモリグモではなくハシリグモではないかと思うのは筆者だけではあるまい。

もう一冊『ヘッピリムシの尻。副題：動植物の科学防衛』（ウィリアム・アゴスタ著、長野敬+石井洋子+浜本洋子訳、青土社）にも幾つか間違いがあった。まずP172 にニワゴケグモとあるのは、学名が*Araneus didematus* である事と前後の文脈からニワオニグモであることは明らかである。翻訳時に例の『ゴケグモ騒動』と重なったため訳者が混同したようだ（出版は1997年）。円網のことを「生物学者はこれを円形巣と呼んでいる」と書いてあるがそんな言い方は生物学者ならずとも聞いた事がない。またP174 のゴールデンシルクグモ (*Nephila clavipes*) はアメリカジョロウグモ (*Nephila clavipes*) であろう。

こうしてみると学名、和名等名前の表記がいいかげんである事が多い。日本に該当する科や属があれば「〇〇科（属）の一種」とすればよいし、なければ学名のまま使えばすむことである。英名をそのまま使うのは次善の策か（ゴールデンシルクグモは可）。しかし勝手に根拠のない和名や用語を創作するのは問題である。また日本にもいるニワオニグモぐらい間違えないでほしいし、ましてや学名の誤記など言語道断である。訳者の側からすれば締切りの問題やよく知らない生物の学名などいちいちチェックしてられないなどの事情もあろう。それはある程度仕方のない部分もあるしクモがいまだにマイナーであることの証しでもある。面倒でも間違いを一つ一つ指摘していくのが我々の務めかもしれない。

1998年度第3回採集観察会 1998/2/21 於埼玉県飯能市天覧山 天候晴れ後曇り
参加者(敬称略); 石島 力, 泉 宏子, 今井正己, 梅林 力, 笠原喜久雄, 工藤泰恵,
笹岡文雄, 貞元己良, 初芝 涼, 平松毅久, 布施佳子, 八幡幸彦
(以上12名)

目録

カネコトタテグモ科 カネコトタテグモ y
トタテグモ科 キシノウエトタテグモ F y, キノボリトタテグモ y
ジグモ科 ジグモ F f
ウズグモ科 マネキグモ y
エンマグモ科 ミヤグモ F y
ユウレイグモ科 ユウレイグモ M f y
ヒメグモ科 ヒメグモ y, オオヒメグモ f y, トビジロイソウロウグモ y, オナガグモ y,
フタオイソウロウグモ m y, ヤリグモ f, ホシミドリヒメグモ y, ボカシミジグモ y,
カニミジグモ F y, ヒシガタグモ y, ハラダカツクネグモ y, ツクネグモ y, バラギ
ヒメグモ y, ムナボシヒメグモ y
サラグモ科 ザラアカムネグモ M, アシヨレグモ f, ヘリジロサラグモ m, ユノハマサラ
グモ y,
センショウグモ科 センショウグモ F
コガネグモ科 ヤエンオニグモ y, アオオニグモ y, トガリオニグモ f y, カラオニグモ
M y, ハラビロミドリオニグモ y, マメオニグモ y, コガタコガネグモ e, ギンメッキ
ゴミグモ y, ヨツデゴミグモ m y, ヤマシロオニグモ y,
アシナガグモ科 ジョロウグモ e, アシナガグモ y, ウロコアシナガグモ y
ヒラタグモ科 ヒラタグモ y
ホウシグモ科 ホウシグモ y
タナグモ科 クサグモ y (卵囊中)
キシダグモ科 スジアカハシリグモ f, イオウイロハシリグモ y
コモリグモ科 フジイコモリグモ f m
ササグモ科 ササグモ y
フクログモ科 ムナアカフクログモ y
イツツグモ科 イツツグモ y
ウエムラグモ科 ヤバネウラシマグモ F
ネコグモ科 ネコグモ F f m
シボグモ科 シボグモ m
アシダカグモ科 コアシダカグモ y
エビグモ科 アサヒエビグモ y, シャコグモ y
カニグモ科 コハナグモ y, アマギエビスグモ y, クマダハナグモ m, ハナグモ M y,

ワカバグモy, トラフカニグモy, セマルトラフカニグモy, ヤミイロカニグモmy
ハエトリグモ科 ネコハエトリfy, マミジロハエトリMf, エキスハエトリF, ヤサア
リグモy, アリグモfy, チャイロアサヒハエトリy, マダラスジハエトリy, カラス
ハエトリy, アオオビハエトリy 計26科71種

過去3回は車で出勤したが、この日初めて電車（西武線）を利用したため少し遅れ途中から一緒になった石島君と集合場所に着いた頃には10時を少し回っていた。既に8名程参加者の方々が来られており世話人堂々の遅刻である。

肌寒いながら薄日が射すコンディションの中採集はスタート、約1時間後中腹の手前で採集会初登場の八幡氏がキシノウエトタテの親子を採集、その後結局キノボリ、カネコが確認されてトタテグモ御三家の勢揃いとなった。

昼食後は日が陰り体の芯まで冷えていくのとは裏腹に参加者の熱気は一向に衰えなかった。その執念が通じたのか種数は70を少し上回り、この時期にしてはまあまあの成果となった。その中で特筆すべきは1992年度の神武寺以来となるホウシグモで、倒木の樹皮で同種を採集された今井氏は秩父合宿のシノビグモに続く快挙となった。大当りの今井さんからは今後とも目が離せない。その他にもエキスハエトリやハラダカツクネといった渋めのところが出て1998年度天覧山での採集会は幕を閉じた。寒い中参加して下さい皆様には心から感謝します。ありがとうございました。

（平松）

＊ ＊ 付 録 （ 台 湾 日 日 新 聞 ） の 解 説 ＊ ＊

掲載された記事は提供いただいた、萱嶋泉さんの大学二年生当時のものだそうです。特に「ヒリスタアタグモ」はComstockのスパイダーブックから、そのまま名前を引用して書かれました。また後日標本を送られた岸田久吉博士から、日本未知種であることがわかりました。そして博士が「カヤシマグモ」と命名されたのです。その後遅れて昭和11年、小松栄博士によって記載され現在にいたっています。

（この文章は萱嶋泉さんのお手紙をもとに構成しました。：編）

参考

カヤシマグモ *Filistata marginata* KISHIDA

（小松栄, 1936. 原色大日本蜘蛛類図説(上), 蘭山会, pp.150-151）

＊ ＊

事務局だより

＊ ＊

会員異動 1999年 1月上旬～1999年04月下旬 (敬称略)

(入会)

平野 健一：〒967-0004 福島県南会津郡田島町大字田島字行司147-1
南部 敏明：〒369-1202 埼玉県大里郡寄居町桜沢2397-2
斉藤慎一郎：〒190-0022 三重県津市片田志袋町300-100-2
本間 征：〒284-0044 千葉県四街道市和良比881
荻島 久子：〒192-0914 東京都八王子市片倉町1074-39
初芝 涼：〒186-0002 東京都国立市東1-3-1-503
酒井 理彦：〒273-0044 千葉県船橋市行田3-1-8-1108

(住所変更等)

朝倉 幹晴：〒273-0042 千葉県船橋市前貝塚町799-2ハイカムール岩佐
B202
立川 晴二：〒177-0051 東京都練馬区関町北4-21-61
鶴崎 展巨：〒680-8551 鳥取市湖山町南4-101鳥取大学教育地域科学部
生物学教室 (名称変更)
板倉 泰弘：〒444-0076 愛知県岡崎市井田町字荒居47-6

(退会)

永田勝利, 東千都子, 宮崎 和代, 石川みどり (希望退会), 伊藤 研 (規約退会)

＊お詫びと訂正

前号 (No. 95) で山野忠清さんを『住所変更』の欄に載せてしまいましたが, 『入会』の誤りでした. お詫びして訂正させていただきます (事務局より)

96-(11)

No. 97の現行締切は8月末日です!

東京蜘蛛談話会 1999 年度合宿について

東京蜘蛛談話会の 1999 年の合宿を以下のように、福井県敦賀市で行います。主な観察場所は、中池見湿地、池ノ河内、敦賀湾沿岸を予定しています。

多数の会員の参加を心よりお待ちしております。

日程：1999 年 7 月 24 日（土）～ 7 月 26 日（月） 2 泊 3 日

宿泊：伝平荘 敦賀市縄間（のうま）29-14-2

Tel. 0770-22-4236

費用：交通費 JR 敦賀駅からバス代片道 470 円

宿泊費 8,000 円／1 泊 3 食

この他に 旅行保険＋通信費として 1000 円

現地までの交通機関：

東京方面から

A JR 東海道新幹線 米原駅乗換 北陸本線：敦賀駅 駅前からバス

B JR 東海道新幹線 京都駅乗換 湖西線経由 北陸本線：敦賀駅 駅前からバス

C 高速バス 東京八重洲口・敦賀経由 福井行 敦賀下車 駅前からバス

D 自動車 名神高速道路米原ジャンクションを経て北陸自動車道 敦賀 I.C.より 気比の松原を通り原電・立石岬方面

新潟・金沢方面から

E JR 北陸本線：敦賀駅 駅前からバス

F 自動車 北陸自動車道 敦賀 I.C.より 気比の松原を通り原電・立石岬方面

関西方面から

G JR 京都駅から湖西線経由 北陸本線：敦賀駅 駅前からバス

H 自動車 名神高速道路米原ジャンクションを経て北陸自動車道 敦賀 I.C.より 気比の松原を通り原電・立石岬方面

いずれの場合も、敦賀駅からのバスは福鉄バス 1 番乗場発で、宿の一番近くのパス停は、「西浦児童館前」です。

申し込みは、6 月 30 日までに下記の申込書に必要事項を記入の上、

新海明まで郵送して下さい。190-0022 東京都立川市錦町3-12-16-1102

参加者には時刻表・道路地図などを別途ご案内いたします。

東京蜘蛛談話会敦賀合宿に以下のように参加します。（○×を記入して下さい。）

7 月 24 日（土） （ ） 〒（ ）

7 月 25 日（日） （ ） 住所

7 月 26 日（月） （ ）

自動車で参加します（ ）

氏名

年齢

Tel.

1999 年 月 日 申し込み

アシダカグモ等を愛せよ

ヒカゲグモ

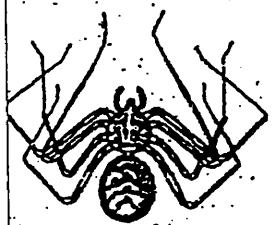
[illegible]

筆者は、昭和八年十二月に東京
大森町郷下の本島人家屋内に於て
ハマダラカが實に多数、此の地に、
かかつて死んで眠たのを目撃した
又此の地方では限外に於ても、マ
シナガタモ、オニダモ、ゴミダモ、
コガネダモ、トゲダモ、シロガタ

四、ユカタヤマシ
ログモ

るのは興味ある問題であらうと思ふ。

三
長八
死
內
外



足の色々しい物である。は淺黄灰色の膚色に紫、黄色がある。髪には黒、赤色の毛がある。髭、戸部等の附いた所に實に不潔な三指位の麻糸を纏つて仕込んで居る。

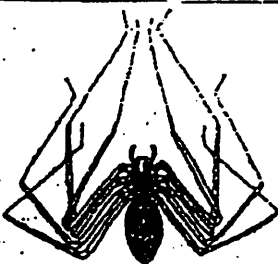
右の間に歩行性の發達した、無能であつて、此の物類の種族に近する様は、港部の男を彷彿とせしめるのである。イロアリ、ネズミノミの親を抱いて居るのを觀察した事がある

本島に於ては平地に集住の道のあるが、山地でも、太平山、山からは、此の物類が前記の所に仕んで居る事が解つてゐる。

ユカタヤマシログモ

五、イトグモ

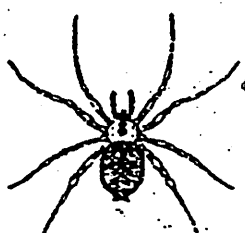
色は、國に産する足の長い蜘蛛
 であつて、八本共には長さが等し
 い。色は灰褐色で、矢張は全くな
 い。ほかに同記のユカタヤマシロ
 イトグモ



七

ダモと同様な場所にて、即ちより精
張らしき、徒然を嘗て因る。歩
行を以て發達して因る。吾々は食
の味を味見して因るのを、或く兄

タイワンチリグモ



A detailed black and white illustration of a spider, showing its eight legs and body structure. The spider is positioned centrally within the right-hand column of the page.

六、タサグモ

(六) 西のり屋
西のり屋は、西のり屋の下の本居人家族に
て、此の西のり屋に、西のり屋で
ある。メイガ、ワンカ、ヨロハヒ
を、西のり屋にて居たのを目
撃した。

(七) 西のり屋
西のり屋は、西のり屋の下の本居人家族に
て、此の西のり屋に、西のり屋で
ある。メイガ、ワンカ、ヨロハヒ
を、西のり屋にて居たのを目
撃した。

六、七回へ行く

七、才女ヒメグモ

一、見られ内分で、腹筋が固腹筋
に出して、肩に大きく球形で
それに黒と白の美しい模がある
一本に於ては屋内及び、野外に
草や野の花である。其は新緑な
緑を要する。明るい所に住んで
オホヒメグモ



九、ネツタイイウ
レイグモ

此の物候は、前記のイウレイダ
ニに形も、西やも非常に良く似て
居る。唯腹部分が球形で、明かい所
にも此の物候が相見して居る點が、
前者と異なつて居る。唯

七

[illegible]

リクモ

洗面灰 白色の
 が生じて居る
 脚は白色で目
 つて居る。ハ
 リダその類は

るが住居を
親子の世や

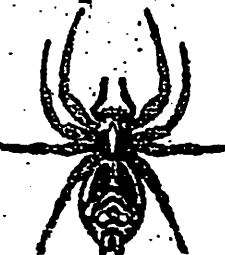
用の如きも、
 いて居るのさ
 られるであら
 それが固ち

氣血で巧に

へる様は種々
の異なる所で
ダンリン
トリグモ
外で、黒色の地

醫性

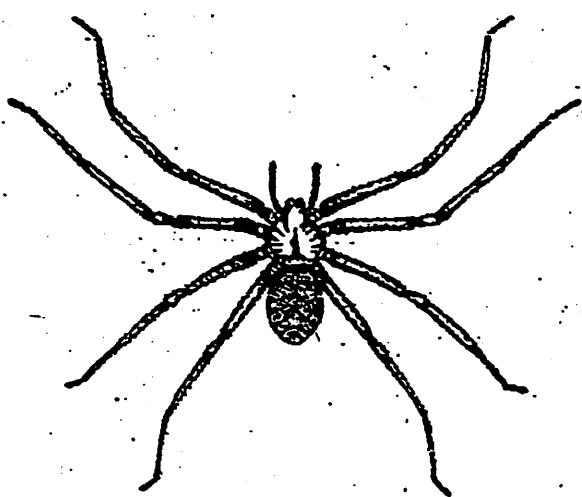
ハハトリング



十二、チャスチハ
ヘトリグモ

想其は一種で、ハトリの内では、大形の方である、はんに依り、色彩、又は形、弱にするものが多々あるが、殊色に於ても、明らかに異な

アシダカグモ



92.4.8

産経新聞(朝刊)

◇「英・イングリッシュ」部のウインドビルの住む機械人が出てくる。この機械人は、クレイグ・イムズと名乗る。耳が痛くて眠れぬ夜を過ごしていたが、悪夢に襲われてしまった。この悪夢は耳の中に「妊娠したタマ」がいたためであった。タマは病院で取り出されたものの、もう少し遅かったら、タマが耳の中に閉じこもっていたとい

チャム

(ロンドン・ロイター)

小池牧子さん提供



97.5.13
産経新聞

ひろMAN面塾



起死回生なるか

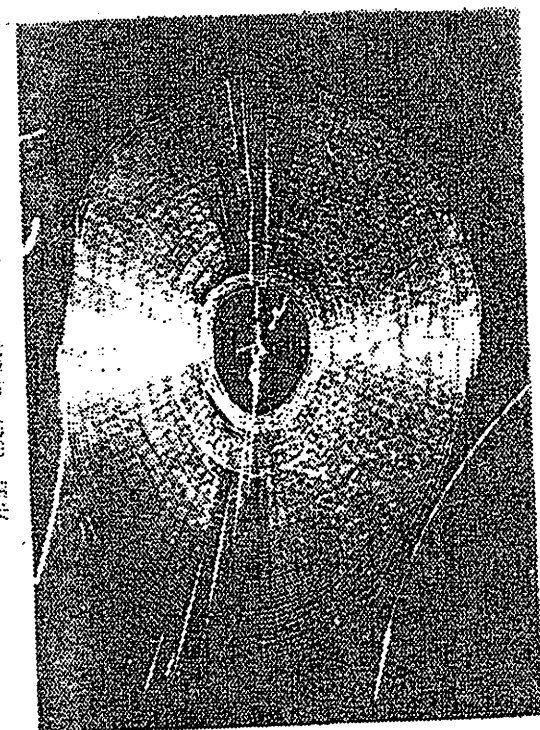
梅林 力さん提供

97.10.4
朝日新聞

97.2.21 読売新聞



読売区・主婦・豊田文子39
線形、表層、文字、余白等とデザインのパラメータのよいものが、結果的に残っていく。その過程を何度も何度も確認してきた。この作品も同様。上段



(「日本の自然」写真展・東京)

98.9.29 朝日新聞